

1 研究テーマ

一人一人の自己肯定感を高め、児童がお互いを大切にしよう学級集団づくり

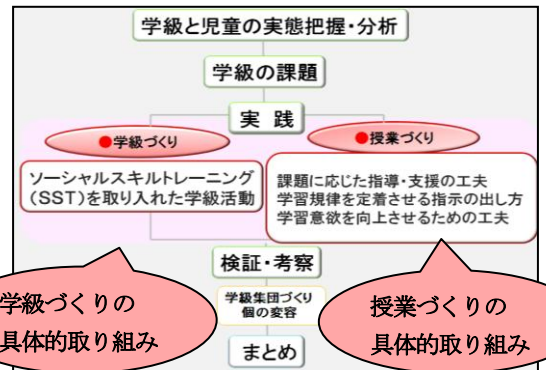
2 はじめに

近年、所属校において個別に配慮を要する児童が増えてきており、児童一人一人の背景にある課題の深刻さに直面することもある。集団の中で個別支援をするためには学級集団づくりが大切であるが、それには難しさもあり、個別及び学級集団づくりのよりよい指導、支援の方法を日々模索している。

3 研究目的

行動観察やアンケート等により児童と学級の実態を的確に把握し学級の課題を明確にして「学級づくり」「授業づくり」のポイントを見つけ出し、児童が安心して生活できる学級集団が作れるのではないかと考えた。学級担任の方針を土台として実態に合う取り組みを考え、それが学級や個人の課題解決につながるものかを検証し、一人一人の児童への有効な指導・支援の方向を見出ししていきたい。

【対象児童 第3学年4学級（130人）】



4 研究内容

(1) 学級及び児童の実態把握と分析 5月

①「楽しい学校生活を送るためのアンケート」(Q-U)の結果

・第3学年全体としては承認感が低い傾向が見られた。

②「ソーシャルスキル尺度をはかるアンケート」の結果

・4学級とも平均的または良好な結果を示した。

③「教職員アンケート」及び学年団との検討会から見えてきた課題

・「学習・生活規律の定着」「児童同士のつながり」「個別の支援」に課題が見られた。

《①②③の実態把握から設定した実践目標》

- ◎学習・生活規律を定着させる（ルールの定着）
- ◎互いに認め合い、安心して自分を表現できるようにする（リレーションの形成）

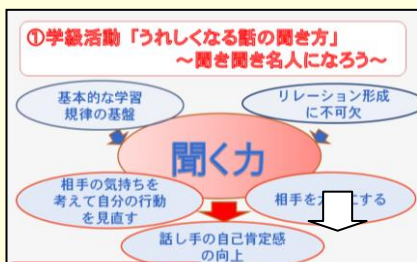
(2) 実践

①学級づくり

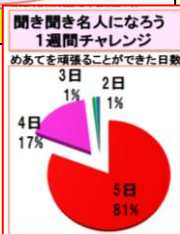
●学級活動 6月

題材「うれしくなる話の聞き方」

●基本的な学習規律の基盤であり、リレーション形成には不可欠である「聞く力」を育てる。



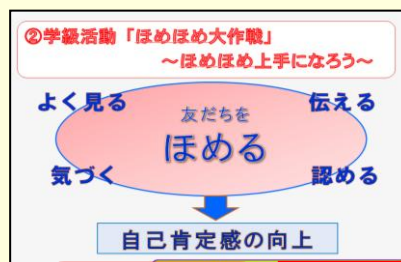
自分の頑張りが結果に表れやすいため、自己肯定感向上につながりやすい!



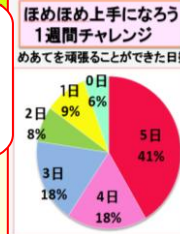
●学級活動 10月

題材「ほめほめ大作戦」

●自己肯定感を高め、リレーション形成にも有効な「互いに認め合い、伝え合う力」を育てる。



ほめるチャンスが見つけにくい。意識化させるための場の設定が必要!



●ショートSST 11月

「聞き聞き名人になろうパート2」

「ほめほめ上手大作戦パート2」

「おしゃべりはなしよ」

●繰り返し行うことで、生活の中にスキルを定着させる。

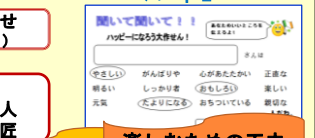
③ショートソーシャルスキルトレーニング実践

目的 児童を認める行為をシステム化するコミュニケーションの量を増やす

聞き聞き名人大作戦パート2

カード合わせ(ペアづくり)

めざせ! 聴き聴き名人 聴き聴きの匠



簡単! 楽しむための工夫(グルーピング!)

②授業づくり

学級の課題に基づいて下記のア～オの中から学級に有効な方法を取り入れて実践した。

学級ごとの課題

学習規律定着・学習意欲向上をめざして

- ア 担任の指示の出し方・言葉かけの検証
- イ 児童をつなげるための工夫
- ウ 担任と児童がつながるための評価言
- エ 視覚支援
(学習の足跡 及び 見通しの見える教室掲示)
- オ 全体指導の中での個別指導

ア ちょっとした小ワザ集
頑張っている児童が認められ
るような具体的な指示の出し方

イ 児童をつなげるための工夫
～意図的座席～
行動観察とQ-Uの結果を参考に

○先生に注目させ、聞く準備をさせる。
②集団を意識させる
「5人 8人 12人…」と、準備のできた児童の人数を短く言う。何回が続くと、子どもたちが気づくようになる。

意図的座席(ペア) ～行動観察とQ-Uの結果を参考に～

- ・多動傾向の児童 ↔ 被侵害得点が低い児童 (満足群)
・正義感が強すぎない児童
- ・学力が高い
・発表や表現活動の意欲が低い児童 ↔ 学力は高くなくても積極的に人と関わる児童 (関わりスキル)

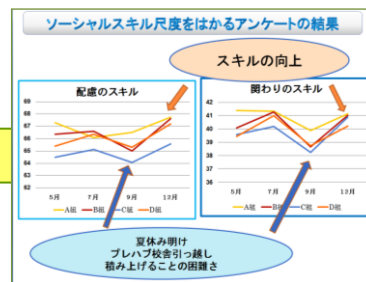
意識して担任が声かけをすることが大切

5 研究のまとめ

●学年一律ではなく、学級ごとのアセスメントに即した学級づくり・授業づくりのアプローチが必要である。

- 行動観察により、担任及びチームで見取ることが大切である。
- 可視化するために「Q-U」「ソーシャルスキル尺度アンケート」は有効である。定期的の実施することで学級集団づくりに生かすことができると思われる。

つかむ



要支援群にプロットしたことで支援を求めていることが明らかになった児童 F児

- 学年会で家庭環境及び背景を確認 (本児の課題を共有化)
- 承認感を高める声かけ
- 意図的座席 (安心できる環境づくり)

●授業中の発表→増
●要支援群 → 非承認群

見えないことの見える化

- 学級の実態に応じたSST
授業づくりの工夫をしていく必要がある。
- スキルが定着することで、安心できる学級集団が生まれ個々の自己肯定感も高まると考えられる。

高める

実生活に生きるスキル

ショートSST 場面設定

スキルの段階的活用

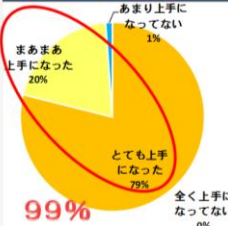
学級活動 きっかけ

要支援群にプロットした児童 E児

- 学級全体のリレーションの高まり
- 表情、行動とも大きく変容
- 要支援群 → 満足群

学級集団が高まると個も高まる

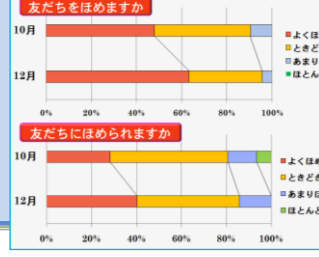
3年生になって聞き方は上手になりましたか



聞き聞き名人になると



ほめほめ上手大作戦 実践後の変容



具体的実践の結果

「友だちや先生の大事な話を聞いてあげてほしい」

「ほめ大作せんをして3-3がまた一ステップなクラスになったと思います。」

- 個別の支援を要する児童には、校内支援委員会等との連携が不可欠である。

教室に入りにくい児童 H児

- 自然に温かく迎える学級づくり
- 安心できる環境づくり (教室の中のつい立て)
- 学校全体でチーム支援

●教室で学習できるようになった

全校体制 チーム支援

支援を要する児童 G児

- 担任が接し方のモデリング
- 本児への細かい支援
- 学級集団の高まり

●情緒面に変容が見られた

集団の中でさりげない個への支援

6 今後の課題

- ・「Q-U」等のアンケートを効果的に活用する。
(侵害行為認知群にプロットすることの意味等、「Q-U」の見方の研修)
- ・SSTの段階的な活用の有効性について理解を深めるために、校内研修を進めていく。
- ・母集団がかわっても個の力を継続的に伸ばしていくために、支援方法の共通理解・体制づくりを図る。

7 おわりに

児童がお互いを大切にしよう学級集団をつくるためには、多角的な視点で学級や児童の実態を把握し、チームで適切な指導・支援をしていくことの必要性を実感した。今後も、「Q-U」等のアンケートの見方の研修を深め、児童の一人一人の自己肯定感が高まるように教職員チームで取り組んでいきたい。